

問題

問 1

正解

完璧



直前
CHECK

プロジェクトマネージャがシステム開発プロジェクトを推進するために成すべき事項として、適切なものはどれか。

- ア 企画プロセスで作成されたシステム化計画書に従って、プロジェクトを運営していく。
- イ システム化計画書に基づいてプロジェクト管理計画書を作成し、承認を得る。
- ウ システム化対象業務の課題に対して、ソフトウェア詳細設計段階で最新のシステム技術を使用した解決方法を採用する。
- エ プロジェクトの範囲や目的をシステム方式設計に入ってから適宜明確にしていく。

問 2

正解

完璧



直前
CHECK

PMBOKにおいて、プロジェクト憲章は、どの知識エリアのどのプロセス群で作成するか。

- ア プロジェクトコミュニケーションマネジメントの実行プロセス群
- イ プロジェクト範囲マネジメントの計画プロセス群
- ウ プロジェクト統合マネジメントの計画プロセス群
- エ プロジェクト統合マネジメントの立上げプロセス群

問 3

正解

完璧



直前
CHECK

PMBOKのプロジェクト統合マネジメントにおいて、プロジェクト範囲の拡張や縮小を行うのに必要なものはどれか。

- ア 欠陥修正
- イ 是正処置
- ウ 変更要求
- エ 予防処置



問 1

イ

- ア：正しくは、システム化計画書を理解してプロジェクト計画書を作成することである。プロジェクトの運営はプロジェクト計画書に従って行う。
- ウ：最新技術には課題を効果的に解決する可能性があるが、潜在的な問題も多い。リスクが高いため、ソフトウェア詳細設計段階の採用は不適である。
- エ：プロジェクトの計画時にスコープや目的を明確にしておかないと、プロジェクトの進む方向がはっきりせずに混乱する。



問 2

工

プロジェクトマネジメントにより特定の成果を生み出す一連の活動のことを、PMBOKではプロセスと呼ぶ。PMBOKでは44のプロセスを定義し、これらを五つのプロセス群に分類している。その五つとは、立上げプロセス群、計画プロセス群、実行プロセス群、監視コントロール・プロセス群、集結プロセス群である。

知識エリアを順に列挙すると、①プロジェクト統合マネジメント、②プロジェクト・スコープ・マネジメント、③プロジェクト・タイム・マネジメント、④プロジェクト・コスト・マネジメント、⑤プロジェクト品質マネジメント、⑥プロジェクト人的資源マネジメント、⑦プロジェクト・コミュニケーション・マネジメント、⑧プロジェクト・リスク・マネジメント、⑨プロジェクト調達マネジメントである。

プロジェクト憲章の作成は、プロジェクトを公式に認可するプロセスであり、プロジェクト統合マネジメント立上げプロセス群で行う。



問 3

ウ

- 欠陥修正：品質検査や監視プロセスで発見された欠陥を修正すること。
- 是正処置：プロジェクトマネジメント計画書と実績の差異を解消すること。
- 変更要求：プロジェクトスコープの拡大・縮小、方針、プロセス、計画、手順、コストおよび予算等の修正、スケジュールの改訂などに関する要求。
- 予防処置：リスク低減のための処置。

問題

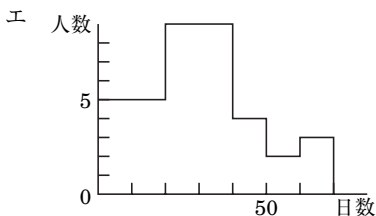
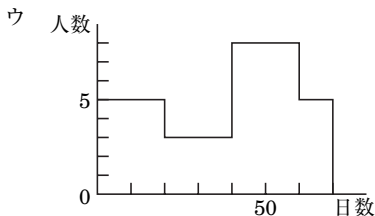
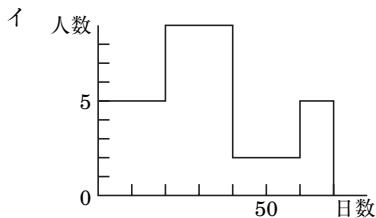
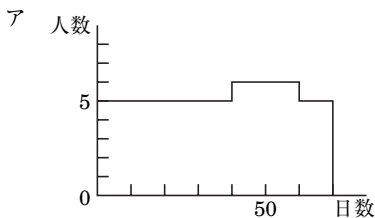
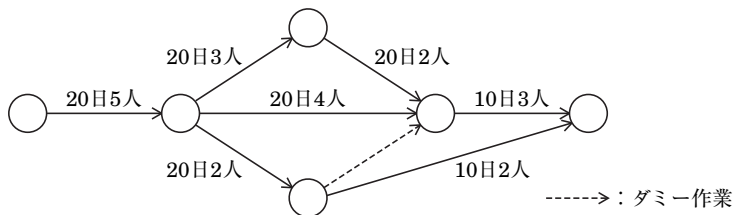
問 4

正解

完璧

直前
CHECK

アローダイアグラムで示す計画に基づいてシステム開発を進めたい。各作業をそれぞれ最も早く開始するとき、必要となる人数の推移を表すものはどれか。ここで、アローダイアグラムのそれぞれの作業に付けられた記述は、作業に必要な日数と、1日当たりの必要人数を表す。



問 5

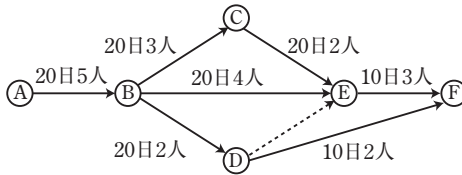
正解

完璧

直前
CHECK

工程管理図表に関する記述のうち、ガントチャートの特徴はどれか。

- ア 工程管理上の重要ポイントの把握に適しており、個人の進捗管理などに用いられる。
- イ 個々の作業の順序関係、所要日数、余裕日数などが把握できる。
- ウ 作業開始と作業終了の予定と実績や、仕掛かり中の作業などが把握できる。
- エ 作業の出来高の時間的な推移を表現するのに適しており、費用管理と進捗管理が同時にできる。

**問4****工**

問題文中の「各作業を最も早く開始するとき」に注目して、アローダイアグラムから必要な人数を計算する。

- ・ A→Bについては、20日間で5人必要。
 - ・ B→C, B→D, B→Eについては、20日間で9人必要。
 - ・ C→E, D→Fについては、同時に開始して最初の10日間で4人、次の10日間で2人必要。問題文中「各作業を最も早く開始するとき」とあるので、同時に開始する。
 - ・ E→Fについては、10日間で3人必要。
- よって正解は選択肢エとなる。

**問5****ウ**

ガントチャート：人員、工程管理などに用いられる帯状のグラフ。横軸に時間、縦軸に人員、製造ライン等を配置し、工程ごとの個別の作業開始日、作業完了日などといった予定や実績についての情報を帯状に示す。

	2月							
	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日
作業A	■							
作業B	■							
作業C				■				
作業D					■			

問題

問 6

正解

完璧



直前
CHECK

スコープを縮小せずにプロジェクト全体のスケジュールを短縮する技法の一つである“クラッシング”では、メンバの時間外勤務を増やしたり、業務内容に精通したメンバを新たに増員したりする。“クラッシング”を行う際に、優先的に資源を投入すべきスケジュールアクティビティはどれか。

- ア 業務の難易度が最も高いスケジュールアクティビティ
- イ クリティカルパス上のスケジュールアクティビティ
- ウ 資源が確保できる時期に開始するスケジュールアクティビティ
- エ 所要期間を最も長く必要とするスケジュールアクティビティ

問 7

正解

完璧



直前
CHECK

ファンクションポイント法の一つである IFPUG 法では、機能をデータファンクションとトランザクションファンクションとに分類する。機能を適切に分類したものはどれか。

〔機能種別〕

EI：外部入力

EIF：外部インタフェースファイル

EO：外部出力

EQ：外部照会

ILF：内部論理ファイル

	データファンクション	トランザクションファンクション
ア	EI, EO, EQ	EIF, ILF
イ	EIF, EQ, ILF	EI, EO
ウ	EIF, ILF	EI, EO, EQ
エ	ILF	EI, EIF, EO, EQ

**問6****イ**

クラッシングとは、追加リソースの投入によって納期を短縮することである。

ア：業務の難易度が最も高いことから、メンバを新たに増員しても効果が出にくい。

イ：クリティカルパスとは、その作業が終わらない場合には次の作業に進めないようなプロジェクト全体のスケジュールを決定している重要な作業の連なりである。よって、スケジュール短縮にはクリティカルパス上のスケジュールアクティビティに優先的に資源を投入すべきである。

ウ：資源が確保できる時期に開始するということは、優先度は低い。したがって、優先的に資源を投入するアクティビティではない。

エ：所要時間を最も長く必要とすることから、全体のスケジュール短縮のためには多くの資源を投入する必要がある、効果的ではない。

**問7****ウ**

IFPUG法は、機能やデータのファンクションを数え、それぞれに重み付けして見積もる手法である。外部設計完了後に見積もる場合に用いる。

データファンクションとは、IFL内部論理ファイルとEIF外部インタフェースである。

トランザクションファンクションとは、外部入力、外部出力、外部照会である。

機能の分類は選択肢ウが正しい。

問題

問 8

正解

完璧



直前
CHECK

JIS X 0129-1で規定されるソフトウェアの品質特性の定義のうち、“効率性”の定義はどれか。

- ア 指定された条件の下で利用されるときに、明示的及び暗示的必要性に合致する機能を提供するソフトウェア製品の能力
- イ 指定された条件の下で利用するとき、指定された達成水準を維持するソフトウェア製品の能力
- ウ 修正のしやすさに関するソフトウェア製品の能力
- エ 明示的な条件の下で、使用する資源の量に対比して適切な性能を提供するソフトウェア製品の能力

問 9

正解

完璧



直前
CHECK

A社では、昨年まではX, Y, Zの3種類の商品を販売していたが、今年は商品体系を変更してP, Q, R, Sの4種類の商品を販売している。P, Q, R, Sそれぞれの購入顧客数と、その顧客数の内訳として昨年までX, Y, Zのそれぞれを購入していた購入顧客数を表示するために作成するグラフとして、最も適切なものはどれか。

- ア 層グラフ
- イ 積上げ棒グラフ
- ウ 二重円グラフ
- エ レーダチャート

**問8****工**

JIS X 0129-1 (ISO/IEC 9126-1)：「ソフトウェアの品質－第1部：品質モデル」

JIS X 0129-1のソフトウェアの品質特性には、**機能性** (Functionality)、**信頼性** (Reliability)、**使用性** (Usability)、**効率性** (Efficiency)、**保守性** (Maintainability)、**移植性** (Portability) が規定されている。

- ア：信頼性の説明である。
- イ：機能性の説明である。
- ウ：保守性の説明である。
- エ：効率性の説明である。

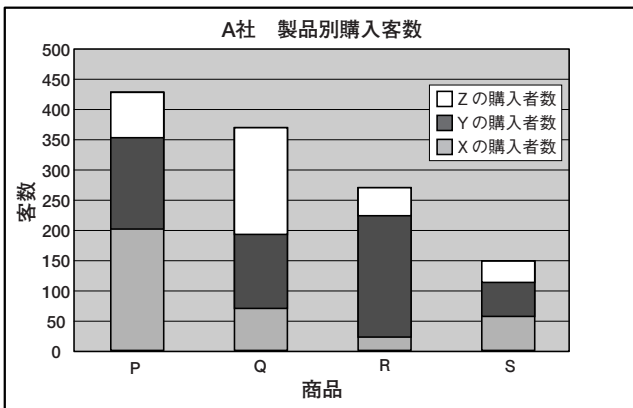
**問9****イ**

層グラフ：複数の項目と全体の推移を表すときに用いる。

積み上げ棒グラフ：複数の項目とその合計を示し、大小比較をするときに用いる。

二重円グラフ：360度の円を100分比に応じて中心点から扇状に区切ったグラフを円グラフという。この円グラフの大小二つを重ね、内側の円と外側の円で異なる項目の構成比率を表すときに用いる。

レーダチャート：放射線状に伸びた数値軸上の値を線で結んだ多角形のグラフ。クモの巣チャートとも呼ばれる。複数項目の比較や傾向の分析に用いられる。



積み上げ棒グラフの例

問題

問 10

正解

完璧

直前
CHECK

あるプレゼンテーションにおいて、次の順序で話を展開した。このような話の展開順序の方法を何というか。

A社では、2年前からIT化を全社的に推進しており、その結果、250名の要員を間接部門から直接部門に配置転換した。

B社では、ホワイトカラーの生産性向上のために、事務部門のIT化を全社的に推進しており、これまでに生産性を25%向上させている。

C社では、.....

D社では、業務効率の向上を図るために、グループウェアを導入し、年間15%の経費節減を達成している。

したがって、間接部門の生産性と経費の節減が重要な課題となっている当社においても、間接部門のIT化に早急に着手することが必要である。

- | | |
|------------|----------|
| ア 因果的順序法 | イ 演繹的順序法 |
| ウ 起承転結型順序法 | エ 帰納的順序法 |

問 11

正解

完璧

直前
CHECK

教育技法の説明として、適切なものはどれか。

ア インバケットは、一定時間内に数多くの問題を処理させることによって、問題の関連性、緊急性、重要性などに対する総合的判断力を高める技法である。

イ ケーススタディは、日常の開発業務の中で、先輩や上司が個別に指導し、実体験から知識を習得させる技法である。

ウ プレーンストーミングは、参加者に特定の役割を演技させることによって、各立場の理解や問題解決力を高める技法である。

エ ロールプレイングは、参加者のアイデアを批判することなく、またそのアイデアから新たなアイデアを導き出そうとする創造的問題解決に適した技法である。

**問 10****工**

因果的順序法：物事の因果関係から話を進める手法。現在の結果から過去の原因を探ったり、将来の結果を推測したりする。

演繹的順序法：文章の論理的構成法の一つ。「大前提」「小前提」「結論」による三段論法で展開する手法。

起承転結型順序法：話を導入の「起」、核へつなげる「承」、核になる部分の「転」、締めくくりの「結」に分けて順に話を展開する手法。物語などに使われる。

帰納的順序法：具体的な事例から一般的な原理や法則、または結論を導き出す形式を用いて文章を組み立てる手法。

問題文では「A社では・・・，B社では・・・」と各社の具体的な事例を挙げてから結論を導き出しているという話の展開から、帰納的順序法である。

**問 11****ア**

インバケット：一定時間内に数多くの問題を処理させることによって、問題の関連性、緊急性、重要性などに対する総合的判断力を高める技法。

ケーススタディ：事例研究。具体的な事例や問題を設定し、研究などで討議を行い、問題の本質を理解や分析を行うことで問題解決能力や分析能力を開発する技法。

ブレインストーミング：自由に意見を出し合い、検討内容についてグループで多種多様な意見を出し合う手法。他のメンバーの意見の批判を禁止とし、自由に意見を出す。

ロールプレイング：参加者に特定の役割（ロール）を演技させることによって、各立場の理解や問題解決を高める技法である。

イ：OJT（On the Job Training）の説明。

ウ：ロールプレイングの説明。

エ：ブレインストーミングの説明。

問題

問 12

正解

完璧



直前
CHECK

リスクマネジメントにおけるEMV（期待金額価値）の算出式はどれか。

- ア リスク事象発生時の影響金額×リスク事象の発生確率
- イ リスク事象発生時の影響金額÷リスク事象の発生確率
- ウ リスク事象発生時の影響金額×リスク対応にかかるコスト
- エ リスク事象発生時の影響金額÷リスク対応にかかるコスト

問 13

正解

完璧



直前
CHECK

デルファイ法を利用して、プロジェクトのリスクを抽出しているものはどれか。

- ア ステークホルダや専門家にインタビューし、回答を収集してリスクとしてまとめる。
- イ 複数の専門家にアンケートを行い、その結果を要約する。さらに要約結果を用いてアンケートを行い、結果を要約することを繰り返すことでリスクをまとめる。
- ウ プロジェクトチームのメンバに複数の専門家を加えて会議をし、リスクに対する意見を出し合い、進行役がリスクとしてまとめる。
- エ プロジェクトを強み、弱み、好機、脅威の各観点及びその組合せで分析し、リスクをまとめる。

問 14

正解

完璧



直前
CHECK

PMBOKのリスクマネジメントにおけるリスク対応戦略の適用に関する記述のうち、適切なものはどれか。

- ア 強化は、マイナスのリスクに対して使用される戦略である。
- イ 共有は、プラスのリスクとマイナスのリスクのどちらにも使用される戦略である。
- ウ 受容は、プラスのリスクとマイナスのリスクのどちらにも使用される戦略である。
- エ 転嫁は、プラスのリスクに対して使用される戦略である。

**問 12****ア**

EMV (Expected Monetary Value：期待金額価値)：「リスク事象発生時の影響金額×リスク事象の発生確率」で計算される。リスクマネジメントにおいて、リスクを金額で評価するために使用する。

**問 13****イ**

デルファイ法は、技術予測やその未来を予測したいテーマに対して、複数の専門家や有識者にアンケートを繰り返し行い、客観性を与えながら意見を集約・洗練させて、確度の高い結論を求める方法である。

繰り返し行うアンケートは、匿名性を保ちながら専門家や有識者からの意見を統計的に集約し、フィードバックすることで客観性を持たせる。

エ：SWOT分析に関する記述である。

**問 14****ウ**

PMBOKでは、リスクの対応戦略を次のように分類している。

1 マイナスのリスク（脅威）に対する戦略

回避（脅威を取り除く）／**転嫁**（脅威を第三者に移転する）／**軽減**（発生確率または影響度を下げる）

2 プラスのリスク（好機）に対する戦略

活用（好機が確実に到来するようにする）／**共有**（好機をとらえる能力のある第三者にオーナーシップを割り当てる）／**強化**（発生確率やプラスの影響を増加させる）

3 好機・脅威両面戦略

受容（リスクを受ける）

ア：**強化**は、事前に対策を打って、発生確率・影響度を高めるプラスのリスクに対して使用する戦略である。

イ：**共有**は、任せられる第三者をリスク（好機）のオーナーにする戦略である。プラスのリスクに対して使用する。

ウ：**受容**は、脅威が分かっているが何もしない戦略である。

エ：**転嫁**は、脅威を第三者に移転する戦略である。

問題

問 15

正解

完璧



直前
CHECK

システム構築の提案依頼書（RFP）を作成する際の留意点のうち、適切なものはどれか。

- ア システムの機能要件は、広義にとらえることができる表現にする。
- イ システムを構築する費用は、供給者選定後に話し合いで決める。
- ウ 提案の評価項目を明示する。
- エ プロジェクトのマイルストーンは、供給者に提案してもらう。

問 16

正解

完璧



直前
CHECK

共通フレーム2007において、システム要件として定義するものはどれか。

- ア 業務、組織及び利用者の要件
- イ データ定義及びデータベースに対する要件
- ウ 利用者の運用に対する要件
- エ 利用者の実行に対する要件

**問 15****ウ**

ア：発注者側の要求するシステム機能要件は、他に解釈できないよう狭義にとらえられる表現にすべきである。

イ：システムを構築する費用については、供給者選定の重要な要素の一つである。

ウ：評価項目や評価基準を明示し、客観的かつ構成に評価できるようにすべきである。

エ：プロジェクトのマイルストーンは発注者が決める。提案依頼書には工程におけるマイルストーンを明記するとともに、工程名称、工程期間、工程目的、工程での管理項目、定例報告及びレビューの予定も明記しておくといふ。

**問 16****ア**

共通フレーム2007とは、情報システムの企画から開発、運用、保守、廃棄にいたるライフサイクルにおいて、それらの各プロセスを明確にすることにより、関係者が「共通の言葉」で話すための「共通のものさし」を定義したものである。

システム要件では業務、組織及び利用者の要件を定義する。

問題

問 17

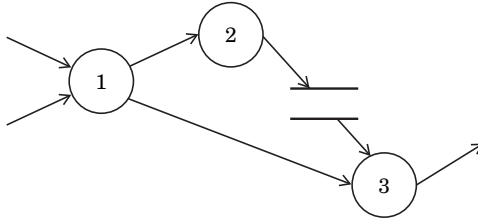
正解

完璧

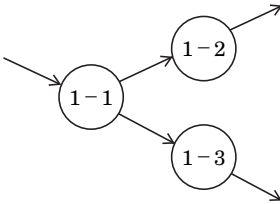


直前
CHECK

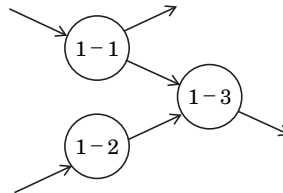
図は、階層化されたDFDにおける、あるレベルのDFDの一部である。プロセス1を子プロセスに分割して詳細化したDFDのうち、適切なものはどれか。ここで、プロセス1の子プロセスは、プロセス1-1、1-2及び1-3と表す。



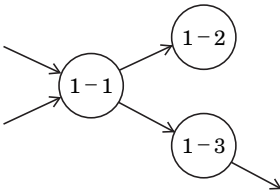
ア



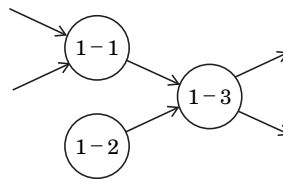
イ



ウ



エ

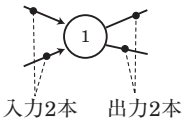
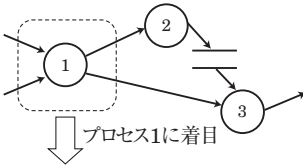




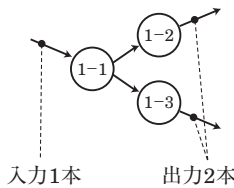
DFD (Data Flow Diagram) : データの流れを中心にシステムを表現したもの。データフロー（情報の流れ）を矢印、処理を円、データストア（データが蓄積されている状態）を2本の太線、外部（データの発生源または行先）を四角で表す。

本問のDFDは、プロセス1への入力が2本、プロセス1からの出力も2本であり、これを満たすDFDは選択肢イとエである。しかし、選択肢エではプロセス1-2に外部からの入力がないため、不適である。

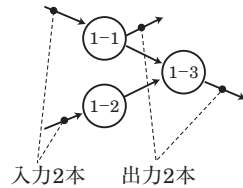
問



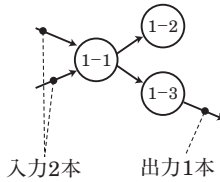
ア



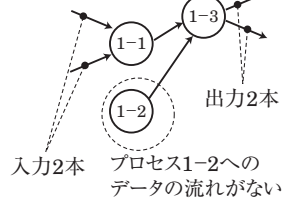
イ



ウ



エ



問題

問 18

正解

完璧



直前
CHECK

CMMIを説明したものはどれか。

- ア ソフトウェア開発組織及びプロジェクトのプロセスの成熟度を評価するためのモデルである。
- イ ソフトウェア開発のプロセスモデルの一種である。
- ウ ソフトウェアを中心としたシステム開発及び取引のための共通フレームのことである。
- エ プロジェクトの成熟度に応じてソフトウェア開発の手順を定義したモデルである。

問 19

正解

完璧



直前
CHECK

共通フレーム2007の保守プロセスにおいて修正分析を行い、既存システムの通信ミドルウェアを改修することとした。改修をソフトウェア要件定義アクティビティから始めるとき、最後に実行するアクティビティとして、適切なものはどれか。

- ア 運用テスト
- イ システム適格性確認テスト
- ウ ソフトウェア結合
- エ ソフトウェア適格性確認テスト

**問 18****ア**

CMMIとは組織やプロジェクトのプロセスの成熟度を評価するためのモデルである。米国カーネギーメロン大学ソフトウェア工学研究所（SEI）で考案された。CMMIでは、組織の製品、サービスの開発、調達能力などを5段階のレベルで評価する。組織におけるソフトウェア開発などの能力を向上させ、能力を客観的に判断するための指標になる。

▼
解答**問 19****エ**

運用テスト：ソフトウェア購入者による運用のためのテスト。ソフトウェア受入れ支援アクティビティにおいてソフトウェア購入者による受入れレビューと受入れテストが実施される。

システム適格性確認テスト：システム要件の通りにシステムが実現されていることを確認する。

ソフトウェア結合：結合テストを行い、ソフトウェアユニット、ソフトウェアコンポーネントを結合する。

ソフトウェア適格性確認テスト：ソフトウェア要件の通りにソフトウェアが実現されていることを確認する。

この場合、ソフトウェア結合→ソフトウェア適格性確認テストまでを行う。ミドルウェアの改修であるから、システム適格性確認テストは実行しない。また、運用テストは購入者側のアクティビティである。

問題

問 20

正解

完璧

直前
CHECK

システムの改善に向けて提出された4案について、評価項目を設定して採点した結果を、採点結果表に示す。効果及びリスクについては5段階評価とし、それぞれの評価項目の重要度に応じて、重み付け表に示すとおり重み付けを行った上で次の式で総合評価点を算出したとき、総合評価点が最も高い改善案はどれか。

〔総合評価点の算出式〕

総合評価点 = 効果の評価 - リスクの評価

採点結果表

評価項目		案			
		案1	案2	案3	案4
効果	セキュリティ強化	3	4	5	2
	システム運用品質向上	2	4	2	5
	作業コスト削減	5	4	2	4
リスク	スケジュールリスク	2	4	1	5
	技術リスク	4	1	5	1

重み付け表

評価項目		重み
効果	セキュリティ強化	4
	システム運用品質向上	2
	作業コスト削減	3
リスク	スケジュールリスク	8
	技術リスク	3

ア 案1

イ 案2

ウ 案3

エ 案4



採点結果表にある評価項目の採点結果に重み付け表にある重みを評価項目ごとに掛けて、評価点を求める。「効果の評価」についての評価点の総和と「リスクの評価」について、評価点の総和から効果の評価とリスクの評価の差を求め、それぞれ改善案の総合評価点を次のように算出する。

$$\text{案1} : (3 \times 4 + 2 \times 2 + 5 \times 3) - (2 \times 8 + 4 \times 3) = 31 - 28 = 3$$

$$\text{案2} : (4 \times 4 + 4 \times 2 + 4 \times 3) - (4 \times 8 + 1 \times 3) = 36 - 35 = 1$$

$$\text{案3} : (5 \times 4 + 2 \times 2 + 2 \times 3) - (1 \times 8 + 5 \times 3) = 30 - 23 = 7$$

$$\text{案4} : (2 \times 4 + 5 \times 2 + 4 \times 3) - (5 \times 8 + 1 \times 3) = 30 - 43 = -13$$

よって、選択肢ウの案3が、総合評価点の最も高い改善案である。

問題

問 21

正解

完璧



直前
CHECK

(1)～(4)はある障害の発生から本格的な対応までの一連の活動である。(1)～(4)の各活動とそれに対応するITILの管理プロセスの組合せのうち、適切なものはどれか。

- (1) 利用者からサービスデスクに“特定の入力操作が拒否される”という連絡があったので、別の入力操作による回避方法を利用者に伝えた。
- (2) 原因を開発チームで追究した結果、アプリケーションプログラムに不具合があることが分かった。
- (3) 障害の原因となったアプリケーションプログラムの不具合を改修する必要があるかどうか、改修した場合に不具合箇所以外に影響が出る心配はないかどうかについて、関係者を集めて確認し、改修することを決定した。
- (4) 改修したアプリケーションプログラムの稼働環境への適用については、利用者への周知、適用手順及び失敗時の切戻し手順の確認など、十分に事前準備を行った。

	(1)	(2)	(3)	(4)
ア	インシデント管理	問題管理	変更管理	リリース管理及び展開管理
イ	インシデント管理	問題管理	リリース管理及び展開管理	変更管理
ウ	問題管理	インシデント管理	変更管理	リリース管理及び展開管理
エ	問題管理	インシデント管理	リリース管理及び展開管理	変更管理



- (1) 利用者が何らかの理由により業務を遂行できない状態となっており、これを早く解決して業務を続けられるようにする運用管理プロセスを**インシデント管理**という。
- (2) ITサービスの品質低下をもたらしている根本原因を効果的・効率的に認識・特定し、速やかな解決に導くためのIT運用管理上のプロセスを**問題管理**という。
- (3) 作業に伴うリスクを最小限に抑えながら、ITサービスへの変更を効果的・効率的に実現するためのIT運用管理プロセスを**変更管理**という。
- (4) 稼働環境に変更を加える運用管理プロセスはリリース管理である。その中でも、実際の本番環境に対して変更を加える際に、どのような準備・実行・見直しを行うかについて管理することを**展開管理プロセス**という。

問題

問 22

正解

完璧



直前
CHECK

IT投資案件において、投資効果をPBP（Pay Back Period）で評価する。投資額が500のとき、期待できるキャッシュインの四つのシナリオa～dのうち、最も投資効率が良いものはどれか。

a

年目	1	2	3	4	5
キャッシュイン	100	150	200	250	300

b

年目	1	2	3	4	5
キャッシュイン	100	200	300	200	100

c

年目	1	2	3	4	5
キャッシュイン	200	150	100	150	200

d

年目	1	2	3	4	5
キャッシュイン	300	200	100	50	50

ア a

イ b

ウ c

エ d



PBP (Pay Back Period) とは、回収期間法と呼ばれる投資効果の評価方法の一つである。投資額の回収期間の短さに着目する方法である。

各シナリオにおいて期待できるキャッシュインから、投資額500の回収にかかる年数を計算する。

シナリオ a : 3.2年

シナリオ b : 2.66...年

シナリオ c : 3.33...年

シナリオ d : 2年

よって、選択肢エのシナリオ d の投資効率が最も良い。

問題

問 23

正解

完璧



直前
CHECK

システム化計画の立案において実施する作業で、その作業の結果を基に、後続の作業でシステム化機能を整理し、情報と処理の流れを明確にするものはどれか。

- | | |
|------------|--------------|
| ア 機能要件の定義 | イ 業務運用手順の文書化 |
| ウ 業務モデルの作成 | エ システム方式の設計 |

問 24

正解

完璧



直前
CHECK

法人が作成し、公開、発売したソフトウェアの著作権の権利期間は公開から何年か。

- ア 15 イ 20 ウ 30 エ 50

問 25

正解

完璧



直前
CHECK

メーカーのA社は、A社が設計しB社がコーディングしたソフトウェアをROMに組み込み、そのROMを部品とした製品Xを製造し、販売会社であるC社に卸している。C社は、この製品Xに“製造元A社”と表示し、一般消費者に販売した。ある消費者が購入した製品Xを使用したところ、ROMに組み込まれたソフトウェアの欠陥によってけがをした。原因はソフトウェアの設計の不具合であった。製造物責任法上、製造物責任を問われる企業はどれか。

- | | |
|---------|------------|
| ア A社 | イ A社とB社 |
| ウ A社とC社 | エ A社とB社とC社 |

**問23****ウ**

システム化計画の立案は、経営戦略・目標を達成するために現状調査と分析を行い、システムのあるべき姿を明らかにし、システム化する機能要件の定義を行う。

後続の作業では、業務モデルを作成して情報と処理の流れを明確にする。

**問24****工**

ソフトウェアに関しても著作権法の保護期間が適用される。無名または周知ではない変名の著作物、および団体名義の著作物の著作権は、公表後50年までを権利期間とする（著作権法52条1項、53条1項）。なお、個人については作者の生存期間および死後50年までを権利期間の原則とする（著作権法51条2項）。

**問25****ア**

製造物責任法では、製造業者等が自ら製造、加工、輸入又は一定の表示をし、引き渡した製造物の欠陥により他人の生命、身体又は財産を侵害したときは、過失の有無にかかわらず、これによって生じた損害を賠償する責任があることを定めている。

メーカーのA社が製品Xに“製造元A社”と表示していることから、消費者による製品Xの使用にともなうけがについて、製造物責任法上の責任がA社に問われることになる。